

ナインのミーティングを見つめる県尼崎  
OBの(左から)妹尾忠弘さん、江渡辰郎  
さん、本多節夫さん＝ほっともっと神戸



## 「県尼」復活の夢 来年へ続く

### 緑陰

奮闘及ばず敗れた試合後、  
県尼崎の3年生たちが一人一  
人、涙を見せながら家族に感  
謝の言葉を伝えていた。「俺  
らの時代とは変わったなあ。  
でも、最後の夏は一生の思い  
出になるよ」。選手たちを温  
かく見つめていたのは、19  
50年代に春4度、夏1度の

## 50年代に甲子園 黄金期OB3人

甲子園出場を誇る「県尼」黄  
金期のOB3人だ。  
最高齢の妹尾忠弘さん(87)  
は、初出場した50年春の3番  
打者。本多節夫さん(78)は59  
年にセンバツ4強入りした当  
時の主将だ。卒業後にプロ野  
球近鉄入りした江渡辰郎さん  
(78)は、一昨年から母校のコ  
ーチを務める。  
1回戦で2年ぶりの白星を  
挙げたが、第1シードの壁は

厚かった。グラウンドが春か  
らの工事で手狭になり、存分  
に練習できなかった事情を知  
る江渡さんは「練習試合もず  
っとアウエーでかわいそうだ  
った。よくやったと思うよ」  
と目を細めた。

最後の甲子園出場から60年  
がたった。「今でも思い出せ  
ば涙が出る。甲子園で応援で  
きたら、そんな幸せなことほ  
ない」と本多さん。3人は「県  
尼」復活を夢見ながら、孫  
たちの戦いを見守り続ける。

(山本哲志)